

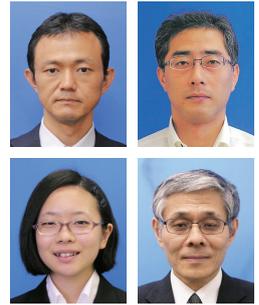
水理解析技術向上のためのCommonMPを用いた人材育成事例

(研究期間：平成19年度～平成30年度)

河川研究部 水循環研究室

主任研究官 多田 智和 室長 川崎 将生 研究員 小沢 嘉奈子

河川研究部 水環境研究官 植田 彰



(キーワード) CommonMP、水理解析、準二次元不等流、貯留関数、人材育成

1. はじめに

CommonMP¹⁾は、河川管理の高度化・効率化を図るための水理・水文解析モデルのプラットフォームであり、職員自らがパソコンで水理解析を行うことができる。国総研では、CommonMPの開発、普及を推進するとともに、H25年度から、CommonMPを用いた水理解析に関する講習を実施している。

2. 講習会の概要

H25～28年度は、国土交通省水管理・国土保全局と国総研の主催で実施し、H29年度は、地方整備局等の主催で実施した(写真1、表1)。

教材は、貯留関数モデルと準二次元不等流モデルの理解を深める教材とした。受講者が理解しやすく、水理解析に関心を持つよう、河道を単純化するとともに、自らが横断面を編集して樹木伐採や河道掘削の効果を確認できる教材を作成した。



写真1 講習会の様子

表1 CommonMP講習会の実施状況

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	合計
実施回数(回)	5	9	10	11	10	45
受講者数(人)	116	199	214	225	164	918

3. アンケート集計

H29年度の講習会受講者に対し、講習会当日に、講習内容の理解度、CommonMPを具体的に使ってみたい内容等について、アンケート調査を実施した。

講習項目別の理解度について、全ての講習項目で、「理解できた」、「多少理解できた」の合計が8割以上を占めた(図1)。

CommonMPをどんなことに使ってみたいのか複数回答可で具体的内容を伺ったところ、河道掘削効果の算定、樹木伐採効果の算定、氾濫計算で高い利用意向が見られた。自己学習に使いたいという回答も多く、人材育成ツールとしての活用も期待できる(図2)。

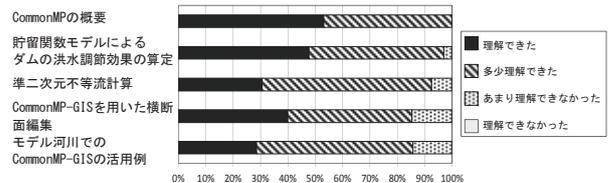


図1 講習項目別の理解度

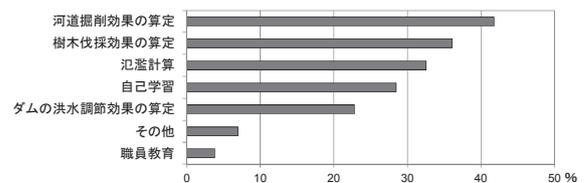


図2 CommonMPを具体的に使ってみたい内容(回答比率)

4. おわりに

河川管理実務でのCommonMPの活用や、CommonMPを用いた自己学習を通じて、職員の水理解析技術が向上することにより、河川管理のより一層の高度化・効率化が期待される。国総研では引き続きCommonMPの開発、普及を推進するとともに、自己学習教材の充実を図っていく。

☞ 詳細情報はこちら

1) CommonMPウェブサイト <http://framework.nilim.go.jp/>